



～設問間の相関関係について～

《相関関係とは》

年齢と収入のように、1つのデータの変化に伴って、もう1つのデータも変化するような関係を**相関関係**といい、1つのデータが増えるとき、もう1つのデータも増えるような関係を**正の相関関係**という。

《設問間の相関関係》

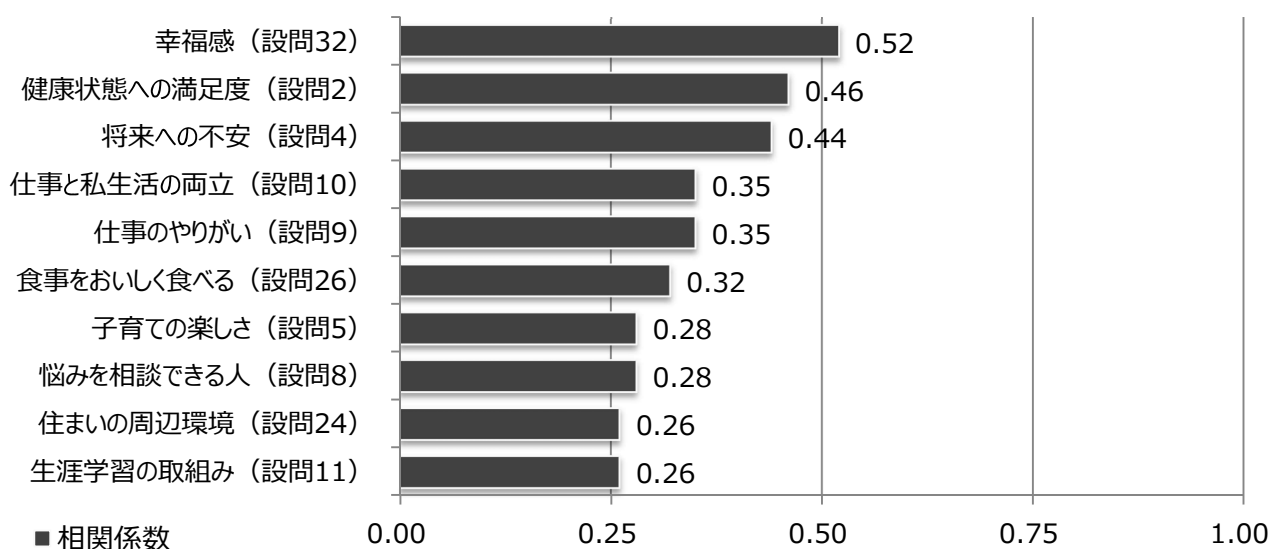
そこで、本調査の69の設問のうち、特に、大局的な評価につながる、「生活満足度」、「幸福感」、「定住意向」について、他の設問との相関関係を把握するため、**相関係数**（係数は-1から+1の間の値をとり、その**値が1に近いほど正の相関関係が強い**ことを示す。）を算出して、分析を試み、その結果を次ページ以降に示している。

（注意事項）

- 相関係数はいくつかの方法により算出することができるが、ここでは、通常用いられるピアソンの相関係数により算出している。
- 設問における選択肢は順位尺度となるが、その値の差が等しい間隔尺度として仮定した上で、相関係数を算出している。
※例えば、設問1の「生活満足度」については、選択肢を、1)満足している、2)どちらかといえば満足している、3)どちらともいえない、4)どちらかといえば満足していない、5)満足していない、に並び替え、その間隔が等しいと仮定し算出している。
- すべての相関係数は、1%水準で有意（偶然に相関関係がみられてしまう確率が1%未満であるということ、すなわち、99%以上の確率で偶然ではないということ。）なものを示している。

生活満足度との相関関係

「生活満足度」（設問1）と意識や行動に関する設問（設問2～32）との相関係数を算出した結果、上位10項目は以下のとおりとなった。



相関係数の一番高いものは、「幸福感」の0.52となり、次いで、「健康状態への満足度」の0.46、「将来への不安」の0.44、「仕事と私生活の両立」の0.35、「仕事のやりがい」の0.35などとなった。

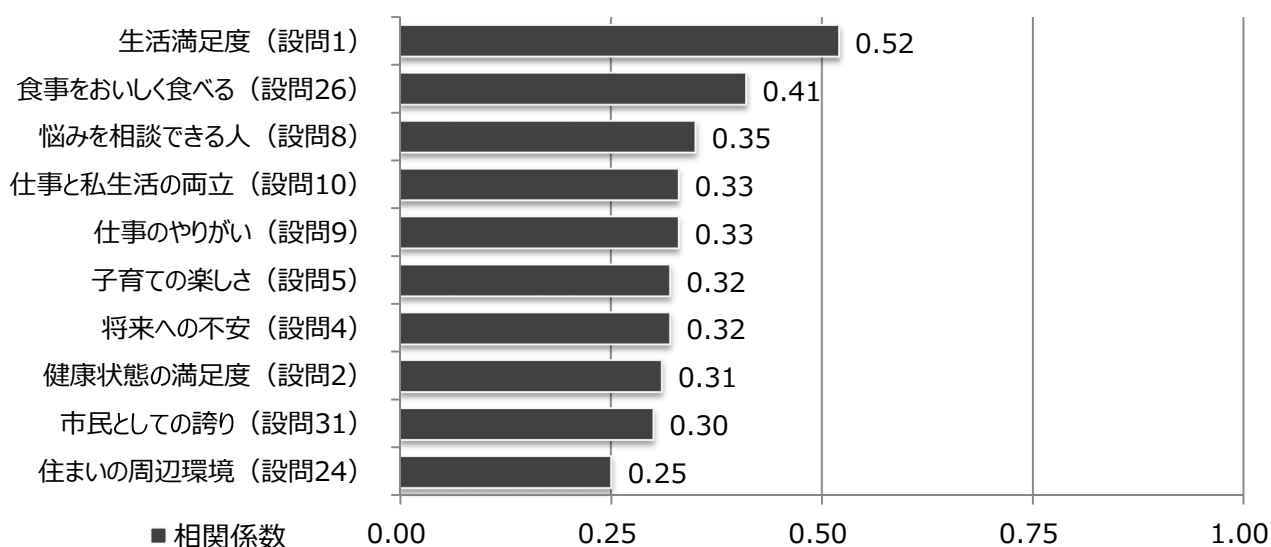
なお、「健康状態への満足度」（36ページ参照）については、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計が62.0%、「仕事と私生活の両立」（48ページ参照）については、「両立できている」、「どちらかといえば両立できている」と回答した割合の合計が71.0%、「仕事のやりがい」（46ページ参照）については、「やりがいはある」、「どちらかといえばやりがいはある」と回答した割合の合計が63.1%となった。

一方で「将来への不安」（38ページ参照）については、「不安はない」、「どちらかといえば不安はない」と回答した割合の合計が20.3%となった。

このことは、健康状態の満足度や仕事のやりがいのさらなる向上や、仕事と私生活の充実を図るとともに、特に、将来への不安を取り除くことにより、生活満足度をより効果的に高められることを示唆しているものと考えられる。

幸福感との相関関係

「幸福感」（設問 32）と意識や行動に関する設問（設問 1～31）との相関係数を算出した結果、上位 10 項目は以下のとおりとなった。



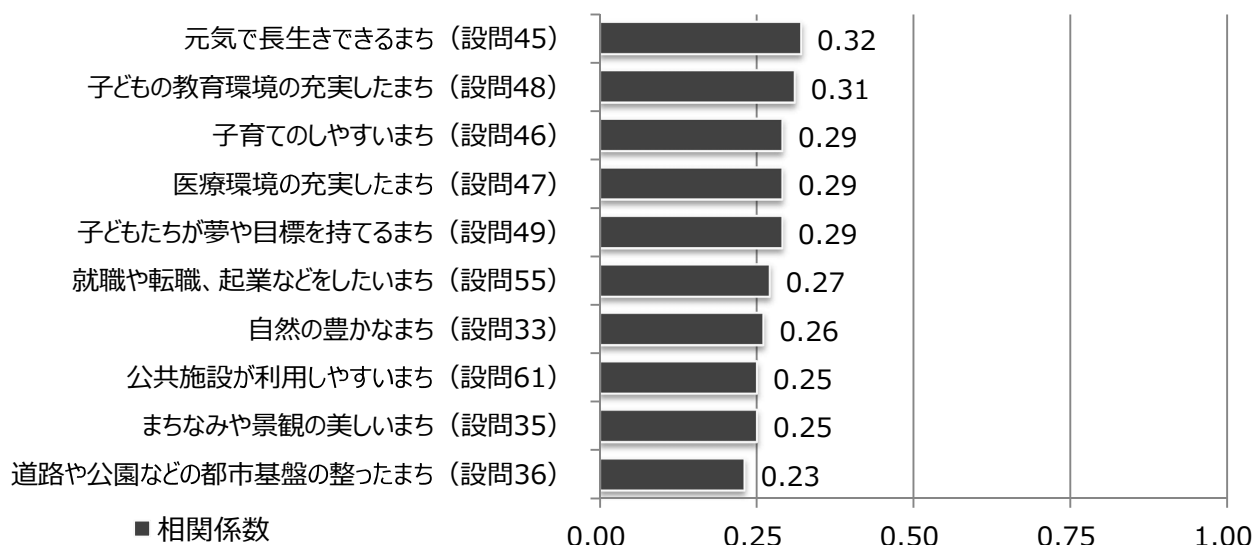
相関係数の一番高いものは、「生活満足度」の 0.52 となり、次いで、「食事をおいしく食べる」の 0.41、「悩みを相談できる人」の 0.35、「仕事と私生活の両立」と、「仕事のやりがい」の 0.33 などとなった。

幸福感との相関が高い上位 10 項目を、生活満足度との相関が高い上位 10 項目（33 ページ参照）と比較すると、上位 8 項目については、順位は不同ではあるが、同一の項目が占める状況となった。

このことは、生活満足度の場合と同様に、食生活の充実、悩みを相談できる人の存在、仕事と私生活の充実、仕事のやりがいを向上させることで、幸福感をより効果的に高められることを示唆しているものと考えられる。

定住意向との相関関係

「定住意向」（設問 63）と岐阜市のイメージに関する設問（設問 33～62）との相関係数を算出した結果、上位 10 項目は以下のとおりとなった。



相関係数の一番高いものは、「元気で長生きできるまち」の 0.32 となり、次いで、「子どもの教育環境の充実したまち」の 0.31、「子育てのしやすいまち」、「医療環境の充実したまち」及び「子どもたちが夢や目標を持てるまち」の 0.29 となった。

なお、それぞれ「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計が、「元気で長生きできるまち」（89 ページ参照）では 60.7%、「子どもの教育環境の充実したまち」（92 ページ参照）では 52.8%、「子育てのしやすいまち」（90 ページ参照）では 54.8%、「医療環境の充実したまち」（91 ページ参照）では 66.2%、「子どもたちが夢や目標を持てるまち」（93 ページ参照）では 44.8%となった。

このことは、健康づくりの推進、子育て・教育環境や医療環境が充実したまちとなることにより、定住意向をより効果的に高められることを示唆しているものと考えられる。